



登り藤

令和8年10月23日(金) 発行
令和8年度 第8号
江戸川区立南葛西第二中学校

言葉は「心の架け橋」

校長 江 熊 秀 昭

合唱コンクールに向けた練習が本格化し、校内に歌声が響き、文化の秋を感じさせます。中学校時代に合唱コンクールはありませんでしたが、歌うのは大の苦手です。音程が外れているのは分かるのですが、修正ができない。分かっているから、余計に恥ずかしい。音楽の先生曰く「音程が分かっているから、音痴ではない」と慰められたこともあります。如何せん、歌うことは苦手です。(校歌などの平易な曲は何とかなっています)しかし、音楽を聴くのは好きで、若かりし頃はポップスやクラシック、合唱、雅楽などを聴きに行きました。

教員になって悩みの種は合唱指導です。ある程度のハーモニーやテンポは分かりますが、細かなことは指導できないので、「みんなで元気よく歌えば、OK!」でした。合唱に限らず、芸術の難しさはゴールがないことです。スポーツならタイムや得点など目に見える目標や数値がありますが、芸術は数値化が難しい部分があります。運動会の大縄跳びなら、「今日は何回を跳ぼう」「できた!」となります。合唱は自分では頑張ったのに、指揮者などから良い評価が得られない。「もういいでしょ」「もっとしっかりやって」そんな言葉が飛び交い雰囲気が悪くなってくる。授業中や休み時間、部活などでもイライラした気持ちが続き、普段なら気にしない言葉や態度に過敏に反応して、トラブルが生じる。合唱練習が始まってから、そうしたことがありました。

言葉はとても大切です。「食う」ではなく「食べる」、「うまい」ではなく「美味しい」など給食中に教室で、常に声掛けしてます。お気に入りのお店で、食事を楽しんでいた際に母、娘、祖母という三人家族がいました。母が娘に「とっとと食べ!」、祖母に「食いきれないもの注文するな。何度も言わせるな!」と強い口調で言っていました。月一回の私の楽しみは台無しでした。

「言葉は身の文(あや)」とは、言葉は発する人の人間性を表すものであるという意味です。「しっかりやろう」「頑張ったね」も心の中は見下している、馬鹿にしているという感情があれば、相手はどこかで気づきます。

いつも冷静でいられる人はいません。感情には起伏があります。自分の心の中には、どのような言葉があり、日々、どのような言葉を発していますか。励ましになる、温かい、前向きになる、安心できる、そんな言葉がたくさんあってほしい。乱暴な、人を傷つける、不安をあおる、暗くなる悪い影響を与える言葉は知っていても使わないでほしい。

言葉は直接向けられた相手だけではなく、周囲にも影響を及ぼします。不満や攻撃的な言葉がたくさん心の中にあると人間関係や精神的に悪影響を及ぼします。

合唱コンクールですから順位は気になります。しかし、結果だけではなく、それまでの練習経過を大切にしてください。良かった点、改善が必要な点をお互いに認め、話し合い、日頃の学校生活に活かすことができ、初めて行事の価値があります。

合唱コンクールの後に、温かい思いやりのある言葉が必要です。そうした言葉を掛けることで、集団に安心や喜びをもたらし、温かく親密な人間関係の輪が広がるのが、「みんながしあわせを感じられる学校」につながっていきます。

※本校ホームページも随時更新しています。ぜひ本校生徒の活躍の様子をご覧ください。➡

